



# OPINION

渡辺和敏

埼玉県警察本部地域部自動車警ら隊長

私はこう考える

## シミュレーターを使って 緊急走行の技術を伝える

サイレンが鳴り、赤色灯が回り、拡声器から「緊急車両、直進します。左に寄ってください」と声が響く。埼玉県警察本部自動車警ら隊の建物の一室に設置されているホンダドライビングシミュレーター(以下シミュレーター)は、通常のものとはかなり様子が違う。シミュレーターを運転する警察官、そのシミュレーターには赤色灯が置かれ、その後ろには警察官がもう一人、助手席として椅子に座り、運転席のモニター画面を覗き込みながらマイクで、運転者に指示したり、周囲に注意を喚起している。時おり、椅子の後ろに立つベテラン指導員から「右から来たのは違反車だろう。違反車発見、声が出ていない」と注意が飛ぶ。「初めは声がかかなか出ないし、サイレンを鳴らすと自分自身が興奮して周囲が見えなくなる。ここでしっかり練習するように」と励まされる。

昨年10月、埼玉県警は全国に先駆けて自動車警ら隊の緊急走行訓練用シミュレーターを導入した。パトカーを使う警察官の運転技術の向上と、緊急時の事故

を防ぐことを目的に実技訓練と組み合わせる。緊急走行訓練には、現場急行訓練(既存の危険予測ソフトを活用し、凶悪事件発生時の指令を受けたと仮定して緊急走行で急行する)と追尾訓練(追尾ソフトにより交通違反車両を現認し、緊急走行で違反車両を追尾する)がある。この緊急走行訓練用シミュレーターには、危険場面・注意場面のシナリオが約100通りのほか、新たに自動車警ら隊の意見を取り入れて改良された追尾ソフトが搭載されている。逃走車両が暴走を繰り返す、子どもが急に飛び出してくる、車両が脇道から入ってくる、などのさまざまなパターンに対応した危険場面を体験できるようにしている。

### 若手警察官(パトカー勤務員)の育成をめざす

自動車警ら隊の渡辺和敏隊長は、シミュレーター導入の背景として、今後の世代交代をあげる。「埼玉県警でも大量退職時代を迎えるほか、7年連続で全国一の警察官の増員となっていることから、今後、世代交代が顕著に進み、パトカー勤務員に占めるベテランの割合が急激に減ってくる」とが予測されています。パトカー勤務は緊急走行時における運転者の危険予測能力と回避能力、同乗者の危険予測能力と運転者に対する指示・指導・助言などの連携等、さまざまなノウハウが必要ですが、今のままではその伝承は困難です。これまでの緊急走行訓練はコース内を2人1組でパトカーに乗車させて訓練しますが、実際の緊急走行のように、歩行者や自転車が飛び出したり、クルマが突然現れたりしたときに、それらを回避する危険予測、危険回

避、逃走車がどこへ行くか分からない予測不能な訓練は、コースでは限界がありました。実際の公道で訓練することはできないため、シミュレーターでベテラン指導員の指導のもとに若手警察官に技術、ノウハウの伝承をし、精強な第一線警察を構築するための努力をしているのです。



シミュレーターを使った緊急走行訓練では、2名の若手警察官が運転役、助手席役に分かれて同時に訓練を行い、その様子をベテラン指導員が指導する

シミュレーター訓練は昨年10月から本格的に始まり、すでに1000人を超える若手警察官が訓練を受けている。渡辺隊長はシミュレーター訓練について、「コースではできない実践に近い状況設定で緊急走行ができて、その結果をさまざまな角度から、検証することができ、また、指導員が後方から、刻々と変わる状況に対する講習生の反応や態度を観察し、講習生に対し直接的な訓練ができています」と非常に効果的な訓練ができています。非常に効果的な訓練ができています。非常に効果的な訓練ができています。

「実車感覚に近い状況で訓練ができ、助手席の重要性を認識するとともに、判断力が養えた」と高く評価されているという。渡辺隊長は、予算化できれば若手警察官の育成に備えて、さらにもう一台導入し、2台使用による追尾訓練も考えているそうだ。

**VOICE**  
読者の声

ご愛読者の皆様へ: SJに対するご意見・ご感想をお寄せください!  
SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、日頃よりご愛読いただいている読者のみなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。SJへのご意見・ご感想は下記のメールアドレスへ。  
sj-mail@ast-creative.co.jp

★今月号のVOICEは、全国の交通教育センターで免許をお持ちの方を対象として開催しているバイクとクルマのスクールに参加されたお客様の声をうかがいました。

### ホンダモーターサイクリスト・スクール(HMS)で 高いレベルの安全運転技術の習得をめざす

大山浩二さん(東京都)

初めてHMSに参加したのは、15年ほど前。上手な方の技術を見て衝撃を受け、「もっと上手になりたい」という気持ちから何度も参加するようになりました。

HMSには、初級・中級・上級のほか、トライアルやバランスなどのコースにも参加することがあります。インストラクターからは、「ただやみくもに走るのではなく、バイク本来の性能を上手に引き出してあげる走りを心がけることで、結果として安全で上手な走りができる」ということを学びました。

交通教育センターレインボー埼玉主催の安全運転競技大会にも、自分の実力を試したいと思い参加しています。今まで練習して積み上げてきた成果を発揮することができ、昨年に続いて2回連続で優勝することができました。でも、自分の運転で納得できない点はまだありますので、これからも、さらに高いレベルの安全運転技術を身につけたいです。

自己流の運転では、少し無理をした走りをすると、事故にもつながるので危険です。交通教育センターで練習することの良さは、きちんと基本から指導してもらえ、技術面でも安全意識でもレベルアップしていくことができる点にあると思います。またHMSでは、同じ目的で集まる仲間と切磋琢磨しあうこともとても魅力的です。

### ホンダドライビング・スクール(HDS)で 体験したことが日頃の安全運転につながる

松田政子さん(東京都)

HDS山野哲也スポーツ&セーフティに3回参加しました。夫がスクールに参加したときに、ご夫婦で参加されている方がいらしたようで、それを見て私にも運転が上達するし楽しいからとすすめてくれました。昨年11月、家族で交通教育センターレインボー埼玉に行き、夫と子どもは親子でバイクを楽しむ会、私は山野さんのスクールに参加しました。

スクールでは、レーシングドライバの山野さんの運転操作を間近で見ることができ、山野さんの運転を本手にして、スムーズな走行を意識的に練習できます。最初は、思うようにハンドルやブレーキの操作ができませんでしたが、以前よりコツをつかんできました。山野さんの的確でわかりやすいアドバイスのおかげです。

交通教育センターの広いコースを使うので、公道では練習できない体験ができることもうれいですが、スラロームのトレーニングではクルマの持つ性能を引き出す運転を練習できます。また、ABS(アンチロック・ブレーキ・システム)も体験でき、ブレーキの大切さを実感できました。スクール後、自分が公道で運転していた時に、動物が飛び出してきて急ブレーキを踏む経験をしました。スクールで「止まる」練習をしていたので、安全に停止することができました。

道路状況に応じた安全な運転をして、事故を起こさないように心がけていきたいと思っています。